

# 経費精算を効率化

## メトロールクラウドサービス導入

メトロール（東京都立川市、松橋卓司社長、042・527・3278）は、マネーフォワードのクラウドサービス「MFクラウド経費」を導入し、従業員の経費精算業務の効率化につなげている。従業員の手間が削減でき、社内の評判は上々。さらに専任の経理担当をなくし、人的リソースの有効活用にも成功している。従業員127人の中小企業が会社全体の働き方に工夫を凝らし、効率的で付加価値の高い職場環境を整える。

（西東京・松崎裕）

メトロールにはもとより人事部や総務部、経理部といった間接部門が存在しない。役員や社員、外部の専門家などが兼任していた。唯一、専任の経理担当を1人置いていたが、退職を機に社内で業務の見直しを検討。専任の経理担当を新たに採用せず、業務を兼任する担当をつけてクラウドサービスの導入に踏み切った。

経費精算につきものの勘定科目の仕訳も経理担当、または申請する従業員に分散させるのではなく、クラウドサービスの自動仕訳機能の力を借りる。仕訳に間違いがあれば申請者自身で修正する。一



部、現金精算による紙の領収書は、スマートフォンで撮影した写真画像を保存し、項目を手入力するだけで、これまで経費精算を

働き方を工夫し業務を効率化（メトロールのオフィス）申請する従業員、上長、専任の経理担当の仕訳という処理の流れだったが、従業員と自動仕訳、上長、兼任による作業のみで

1人2時間程度に圧縮できた。松橋社長は「開発や営業など付加価値を生む直接部門に人員を割き、創造的でより本質的な仕事に「なりたい」と思いを語る。

メトロールはもともと外回りの営業社員に会社名義のクレジットカードや交通系電子マネーで出張費や交通費などを処理している。そのため明細情報を電子化する土壌があり、クラウドサービスへのデータ連携は容易で、導入は円滑だった。従業員は隙間時間な

どを利用し、アプリ（応用ソフト）を入れたスマートフォンやパソコンを使い外出先でもこまめに経費精算ができる。そのため、1カ月ため込んでいた領収書をまとめて処理し、経理に提出するのではなく、1週間に一度はこまめに精算し、ため込まないよう処理する習慣づけにもつながった。

人手不足に悩む中小企業の働き方をクラウドサービス導入によって効率化し、貴重な人的資源の捻出につながっている。